平成２９年４月３日

平成２９年度学校経営について

広島特別支援学校
校長　中尾　秀行

１　学校教育目標

児童生徒の自立と社会参加を目指し、一人一人の力を伸ばして、主体性をもって豊かに生きる人間を育てる。

２　目指す学校像（ビジョン）

家庭や地域社会から信頼され、本市の特別支援教育のセンターとしての役割を果たす学校

- 児童生徒の自立と社会参加を目指す学校
- 専門性を高め合い、弛まぬ教育実践を行う学校
- 児童生徒が生き生きと活動する教育環境が整った学校
- 地域社会に開かれた学校

３　目指す子ども像

明るく　元気に　たくましい子ども

４　目指す教師像

専門性と指導力の向上を目指し、児童生徒、保護者から信頼される教師

５　ビジョンの具現化

⑴　児童生徒の自立と社会参加を目指す学校

ア　小学部、中学部、高等部一貫した学びの連続性のある教育の推進（教育課程、シラバス等の検討・作成）
イ　児童生徒の高等部卒業後の進路を見据えるとともに、自立と社会参加を目指した教育内容の充実、職業教育の充実（キャリア教育の推進）
ウ　指導計画や指導内容の妥当性についての説明責任

⑵　専門性を高め合い、弛まぬ教育実践を行う学校

ア　主体的な児童生徒を育てるための授業改善
イ　指導略案の作成と授業の振り返り
ウ　児童生徒の実態に応じた指導の手立て（視覚支援、支援機器等の活用）

⑶　児童生徒が生き生きと活動する教育環境が整った学校

ア　校内・教室の美化（整理・整頓）及び教室の構造化
イ　倉庫の整理・整頓及び備品点検

⑷　地域社会に開かれた学校

ア　児童生徒、保護者、地域から信頼される学校
イ　特別支援学校のセンター的機能の充実
ウ　医療・福祉・労働等関係機関との連携
エ　情報発信のための WEB ページの充実

６　ビジョンの具現化に伴って

⑴　教育内容の充実

ア　全ての児童生徒に分かる授業、手立てのある授業を行い、授業力の向上に努める。
- 教員一人一人が指導案を作成し、年１回の授業研究を行う。
- タブレットを活用した授業実践を行う。

イ　研究主題「自立と社会参加を目指し、『わかる』『できる』『かかわりあう』を大切にした授業づくり」副題「『かかわりあう』日常生活における指導」に向けた授

業研究を行う。
・　平成２９年度公開授業研究会（平成２９年１１月３０日（木））
・　第２２回視聴覚教育総合全国大会・第６９回放送教育研究会全国大会広島大会（平成３０年１１月１６日（金）～１７日（土））

ウ　児童生徒が本校で学んだことを生活で生かされるような授業づくりを推進する。
・　生活に結びついて生活に役立つことができる教育内容とする（QOL の向上）。
・　生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりを行う。

エ　進路指導の充実を図る。
・　進路指導の計画的な実施と情報の共有化を図る。
・　児童生徒、保護者の願いに応える進路を行い、平成２９年度卒業生の進路決定１００%、企業就職率４０%以上を目指す。

⑵　高等部単独の新たな学校の設置に向けた準備（教育課程、諸室、施設・設備等）

⑶　障害のある子どもへの医療的ケア実施事業の充実

⑷　卒業後の豊かな生活を営むことができるよう生涯学習への意欲を高める（スポーツや文化・芸術活動）

⑸ サポートセンターの機能化（相談機能の充実）

⑹　学び続ける教師（専門性の確保と教師力の向上）

ア　児童生徒の一人一人の教育的ニーズを見立て、個別の指導計画、個別の教育支援計画を立てる力の向上を目指す。

イ　児童生徒の教育的ニーズを適切に把握し、目標、指導内容、指導方法が設定できる力の向上を目指す。

ウ　教師としての基本的な要素である、教科等の指導、児童生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導、教職員間や地域・専門機関等との連携・協働を行う力の向上を目指す。

エ　保護者・家族への支援に努め、保護者・家族の思いや願いを受け止め、理解する。

⑺　超過勤務の縮減

ア　会議の効率化、スリム化、職員会議のペーパーレス化

イ　文書作成に関わって、これまで作成されたデータ（ファイル）の活用

ウ　職員朝会は、月・火・木実施（連絡事項）

エ　定時退校日の徹底

⑻　業務遂行の円滑化

ア　個人に業務が偏らないよう、業務を平準化

⑼　健康と安全と衛生

ア　衛生委員会を毎月開催し、内容を教職員に周知

⑽ 協働

ア　教職員一人一人が組織の一員として、力を合わせて仕事に従事

⑾ 服務規律の確保と中立性の確保、法令遵守

ア　不祥事の撲滅

イ　場に応じた服装

ウ　挨拶、ルール・マナーの遵守、名札の着用